



# Business Report 2019

第45期  
中間事業報告書  
2018年7月1日～12月31日

株式会社ジョイフル  
〒870-0141 大分県大分市三川新町一丁目1番45号 TEL.097-551-7131 (代)  
<http://www.joyfull.co.jp/>



# Business Report 2019

第45期中間事業報告書

Restaurant  
Joyfull

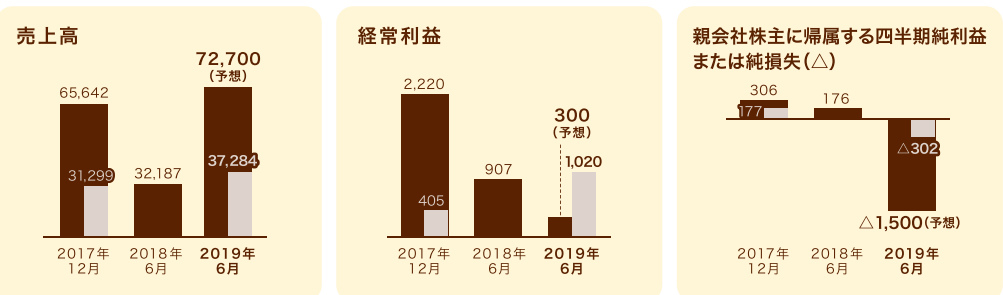
## 経営理念 Management Philosophy

私達は、チェーンレストラン事業を通じ、  
顧客・株主・従業員・取引先・社会の、  
精神的・物質的幸福を調和させ、その安定的増進を実現します。

## ジョイフル 店員の誓い Our Promise

私達は、ジョイフルの旗のもと、信頼される品質の店、低廉な価格の店、  
どこにでもあって、いつでも開いている店、気軽に快く過ごしていただける店として、  
永続的・安定的に営業し、皆様に愛される店となります。

## 連結業績 ハイライト Consolidated Results



※当社は、2018年6月期より決算期(事業年度の末日)を12月31日から6月30日に変更しております。  
これにより、前連結会計年度は第2四半期連結財務諸表を作成していないため、前第2四半期連結累計期間については、記載しておりません。

株主の皆様へ

## 上期は中長期的な成長戦略を実現する 活動に専念いたしました。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、ここに第45期(2019年6月期)の中間事業報告書を作成いたしましたので、ご覧いただきますよう、宜しく御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、設備投資・生産面の増加の動きや政府の経済対策、日銀の金融政策を背景とした個人消費の持ち直しなど、緩やかに景気が拡大する状況で推移いたしました。

一方、外食業界においては、雇用・所得環境の改善等にもない、消費者マインドに持ち直しの動きがみられるものの、労働力不足による人件費の更なる上昇など、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、今後の中長期的な成長戦略を実現するため、既存のジョイフルブランドはもちろんのこと、新業態ブランドの開発を進めるとともに、M&Aによる子会社を含めたグループ全体のパフォーマンス向上に取り組んでまいりました。

従来よりさまざまな取り組みを行ってまいりました「働き方改革」ですが、その一環として、クルー定着率向上による人員の充足など、働きやすい職場環境の推進に向け積極的に取り組んでまいりました。また、2018年10月から本格稼働しました福岡センターは、食の安全・安心への取り組みはもちろんのこと、最新設備機器の導入による生産および作業効率の向上や、太陽光発電の導入など省エネルギー対応による環境への配慮も実現しております。

商品施策では、グランドメニューをベースにしながらも、お客様の消費動向を捉えながら試験販売を繰り返し、その結果を慎重に分析したうえでフェアの実施を4回、ランチメニューの改定を1回行いました。また、既存商品のブラッシュアップを継続して行い、提供品質の向上を進めてまいりました。

営業施策では、営業状態の更なる向上のための社内管理ツールを最大限活用し、客数計画の精度向上や適正な人員配置などの分析を進めるとともに、新たな社内研修制度を導入し、店長マネジメント力やオペレーション力の強化に取り組んでまいりました。  
また、改正健康増進法の2020年4月施行に向けて、全店の完全禁煙化を着実に進めてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における経営成績は、売上高372億8千4百万円。営業利益10億4千7百万円、経常利益10億2千万円となりました。前年同期比で減益となった主な理由は、新規出店にともなう費用の増加、労働力不足にともなう人件費の増加などがあげられます。

なお、約5億6千万円の減損損失の計上、繰延税金資産を約4億円取り崩したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は3億2百万円となりました。

今期は西日本豪雨災害により、多くの店舗が一時閉店し、床上浸水した店舗もございました。異常気象による天災に見舞われている昨今、地域の皆様に愛され続けるため、お客様の笑顔のために、当社は日々努力を積み重ねてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長  
穴見 くるみ



## 「福岡センターの稼働開始」



### 福岡センター概要

- 所在地 / 福岡県築上郡築上町日奈古186番1号
- 敷地面積 / 約36,700㎡
- 延床面積 / 約11,850㎡
- 従業員数 / 社員約30名、クルー約80名



福岡センター俯瞰



静脈認証機



トラバーサー

大分工場、大分配送センターの老朽化にともない、2016年より検討を進めてきた福岡センターが、2018年10月1日に本格稼働いたしました。福岡センターでは、消費者の食の安心・安全への意識の高まりを背景に、生産管理の強化を行っております。衛生管理上難しいとされる鶏肉と牛肉の加工を同一工場内で行えるよう、高度なフードディフェンス対策として、入出退者の管理、監視カメラの設置、静脈認証システムの導入などを取り入れております。製造能力も優れており、九州、中国、四国にある約400店舗へ製品を供給できるようになりました。また、配送センター内倉庫の保管能力は、大分配送センターの約5倍となります。新物流システムでは、基幹システムとセンター内の各システムを連携させることで、生産性が向上しております。自動仕分けを行うトラバーサーの導入により、入出庫の効率化も実現できました。太陽光発電施設、全館LEDの採用、夏の電力使用量を抑えて電気料金を低く抑えるためのデマンドコントロールシステムも導入し、環境にやさしい工場を実現しました。



※商品イメージ写真 実際店舗で提供される盛り付けとは異なります。

## 「成長戦略の推進」

2018年9月に、北海道初となるジョイフル札幌東苗穂店がオープンしました。新業態ではジョイフル初のカフェ業態である並木街珈琲大分中島店を出店し、二五十大分都町店は、大分中央町店から移転オープンいたしました。また、賃貸借契約満了や不採算店舗の見直しなどにもない、11店舗の退店(新業態含む)を行いました。

### 2018年7月～12月オープン店

- |         |             |           |
|---------|-------------|-----------|
| ●埼玉春日部店 | ●札幌東苗穂店     | ●愛知江南店    |
| ●ピエラ明舞店 | ●並木街珈琲大分中島店 | ●二五十大分都町店 |



並木街珈琲大分中島店

## 「グループ会社における取り組み」

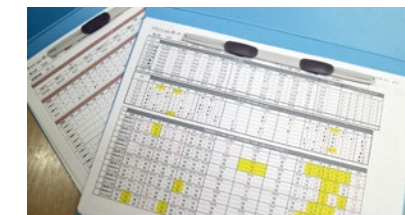
2018年10月に、キッチンジロー新虎ノ門店をリブランディングし、「キッチンジロー&ほろよいジロー」がオープンしました。昼は洋食レストラン、夜はバルとして営業しており、従来とは異なるお客様へのアプローチを行った結果、夜の営業の売上は前年の3倍となりました。業態転換2号店目として芝大門店が2019年2月にオープンしております。



キッチンジロー&ほろよいジロー新虎ノ門店

## 「営業力の強化」

フラッシュレポートを全店に導入したことにより、時間帯別の客数計画精度、人員投入の正確性、料理提供率などの数値を、子会社社長から店長まで確認できるようになりました。店舗ごとの傾向分析、フィードバック対応により、引き続き「既存店1店舗あたりの売上高の最大化」を進めてまいります。



## 「ジョイフルカレッジ新設」

2019年4月にジョイフル初の大規模研修施設である「ジョイフルカレッジ」が始動しました。ジョイフルカレッジは、2018年10月に本格稼働した福岡センターと同一の敷地内に建設。施設内にはジョイフル店舗と同様の設備が整っており、ピークを想定したオペレーション研修が可能になります。当施設は、研修環境を充実させ、全従業員にトレーニーとしての高度な教育を施すことを目的としています。2018年から新卒社員の入社研修は約2ヶ月間行っており、今後はさらに十分な研修期間を与え、社員の定着率を高めていきます。そして、ジョイフルのQSC(クオリティ・サービス・クリンリネス)を向上させ、1店舗当たりの売上高を最大限にし、売上高の維持・拡大に取り組んでまいります。また、創立50周年に向け、新業態開発などビジネス拡大に不可欠となる優秀な人材を輩出するため、研修に集中して取り組めるよう、個室の宿泊部屋など、さまざまな環境を用意しています。



ジョイフルカレッジ外観

### ジョイフルカレッジ概要

- 所在地/福岡県築上郡築上町日奈古186番3号
- 延床面積/約2,700㎡
- 5階建て/1階:店舗設備をふくむ実務研修フロア、2階:講習フロア、3~5階:談話室・宿泊室

ジョイフルカレッジの外観には、ジョイフルのキーカラーがあしらわれています。ブラウン、イエロー、オレンジを使用した建物は、遠目にも目立つようになっています。駐車場は福岡センターと共用となっています。

玄関ホールは吹き抜けとなっており、自然光が差し込む明るい空間が特長となっています。正面玄関入り口には、ジョイフルのコーポレートマークである「オレンジエディ」が大きくあしらわれ、その左右の壁には、ジョイフルの歴史や、従業員の笑顔がディスプレイされています。また、過去のグランドメニューなども実際に手に取ることができるようになっています。



正面玄関入り口



ミーティングルーム



研修室



※商品イメージ写真 実際店舗で提供される盛り付けとは異なります。

## 「クオリティ・ファーストの強化」

男性よりも利用数が多い女性の来店頻度を高めるため、1月に行ったグランドメニュー改定では、女性を意識したライトミールやデザート強化しました。このグランドメニューの商品開発では、豆腐を使用したハンバーグなど、ヘルシーな食材を多用し、従来のジョイフルの枠にとらわれない商品開発を行いました。また、フェアでは本格的なハンバーガーを販売しました。お客様からも高い評価をいただき、SNSでも話題となりました。



## 「次世代型ジョイフルの開発」

テーブルレストランではなく、フードコートのような形式となる「ジョイフルエクスプレス」をオープンさせる計画です。お客様への商品の提供形式が変わり、セルフサービスとなります。通常ジョイフルでは販売していない商品の販売や、テイクアウトも計画しています。作業効率の改善・見直しを進めることで、収益性が高く、労働生産性の向上に特化した実験店舗を目指しています。



Joyfull Express(イメージ)

## 「外販の拡大」

2017年から販売を開始した家庭用冷凍ハンバーグですが、販売網が九州エリアから東北エリアにかけて広がったこともあり、急速に売上が伸びています。下期からは「鶏のなんこつ唐揚げ」なども販売することになりました。販売商品数が増え、ジョイフルエクスプレスでも同商品を販売する予定のため、今後もよりいっそう売上高の増加が見込まれています。



連結  
財務諸表

Consolidated  
Financial  
Statement

資産の部

当第2四半期連結会計期間末の総資産は397億8千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ7千6百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金等の流動資産の減少12億9千5百万円、有形固定資産の増加12億4千万円、投資その他の資産の増加8千5百万円によるものであります。

Point

負債の部

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は242億3千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億3千7百万円の増加となりました。これは主に、長期借入金金の増加16億6千2百万円、未払費用の減少6億5千9百万円によるものであります。

Point

純資産の部

当第2四半期連結会計期間末における純資産は155億4千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億6千万円の減少となりました。これは主に、利益剰余金の減少5億9千6百万円、非支配株主持分の減少5千9百万円によるものであります。

Point

売上高

売上高は372億8千4百万円。連結子会社である㈱フレンドリーの売上高をのぞくと、前年同期間比では減収となりました。これは新規出店や外販が売上増に寄与したものの、自然災害による店舗クローズ、退店にともなう売上減が影響しました。

Point

営業利益・経常利益

営業利益は10億4千7百万円(前年同期間比△40.4%)、経常利益は10億2千万円(前年同期間比△43.8%)となりました。減益の主な要因は、既存店売上高の減少、新規出店にともなう経費の増加や、労働力不足にともなう人件費の増加などによるものです。

Point

連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第2四半期 連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	9,302	8,007
固定資産	30,409	31,780
有形固定資産	22,676	23,916
無形固定資産	874	919
投資その他の資産	6,858	6,944
資産合計	39,711	39,788
<b>負債の部</b>		
流動負債	9,863	10,327
固定負債	13,638	13,911
負債合計	23,502	24,239
<b>純資産の部</b>		
株主資本	15,511	14,915
資本金	6,000	6,000
資本剰余金	2,390	2,390
利益剰余金	10,874	10,278
自己株式	△3,753	△3,753
その他の包括利益累計額合計	△9	△14
退職給付に係る調整累計額	△11	△9
純資産合計	16,209	15,548
負債純資産合計	39,711	39,788

連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)
売上高	37,284
売上原価	12,092
売上総利益	25,192
販売費及び一般管理費	24,144
営業利益	1,047
営業外収益合計	111
営業外費用合計	138
経常利益	1,020
税金等調整前四半期純利益	431
法人税、住民税及び事業税	389
法人税等調整額	399
四半期純損失(△)	△357
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△302

※金額は百万円未満を切捨表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	388
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,903
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,259
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,255
現金及び現金同等物の期首残高	5,833
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,578

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、3億8千8百万円となりました。収入の主な内訳は、減価償却費8億7千万円、税金等調整前四半期純利益4億3千1百万円、支出の主な内訳は、未払費用の減少6億8千7百万円、未払又は未収消費税等の増減3億5千4百万円であります。

Point

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、39億3百万円となりました。支出の主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出26億8千7百万円、貸付けによる支出6億8千万円であります。

Point

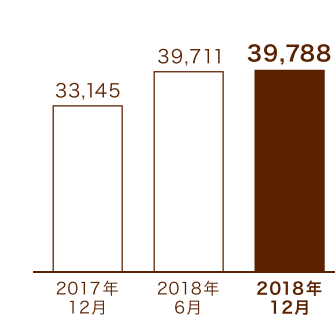
財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、12億5千9百万円となりました。収入は、長期借入れによる収入25億円であり、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出8億3千7百万円、配当金の支払額2億9千2百万円であります。

Point

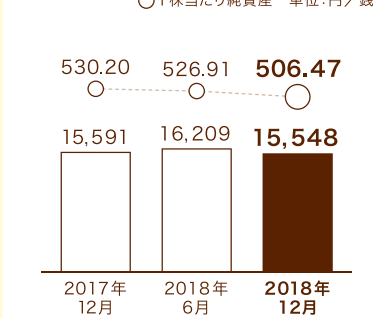
総資産

単位:百万円



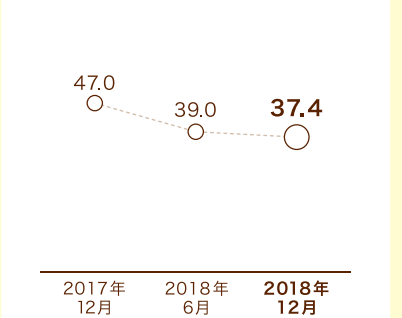
純資産

□ 純資産 単位:百万円  
○ 1株当たり純資産 単位:円/銭



自己資本比率

単位:%



※当社は、2018年6月期より決算期(事業年度の末日)を6月30日に変更いたしました。そのため、2019年6月期第2四半期(2018年7月1日から2018年12月31日)の比較対象となる2018年6月期第2四半期(2018年1月1日から2018年6月30日)四半期連結財務諸表は作成しておりません。

## 株式情報 Stock Information

株式の状況

発行可能株式総数  
**120,000,000株**

発行済株式総数  
**31,931,900株**

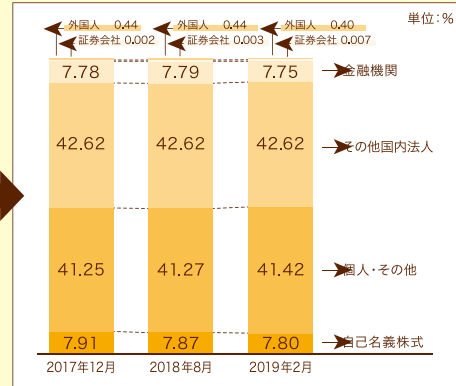
株主数  
**13,825名**

株式の所有者別状況

	2017年12月31日現在		2018年8月31日現在		2019年2月28日現在	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	5	818	5	1,004	7	2,450
外国人	17	140,100	19	141,900	20	128,700
金融機関	12	2,485,562	13	2,487,362	13	2,474,962
その他国内法人	98	13,610,280	102	13,610,180	105	13,610,534
個人・その他	13,298	13,170,596	13,517	13,179,718	13,679	13,225,882
自己名義株式	1	2,524,544	1	2,511,736	1	2,489,372
<b>合計</b>	<b>13,431</b>	<b>31,931,900</b>	<b>13,657</b>	<b>31,931,900</b>	<b>13,825</b>	<b>31,931,900</b>

※基準日時点に基づく株主名簿による記載となります。

株式の所有者別構成比率の推移



## 会社情報・店舗情報 About Us

店舗一覧 (2018年12月31日現在)

**872店**

うちFC店舗55店  
※( )内はFC店舗  
※新業態含む  
※(株)フレンドリー含む

九州・沖縄エリア

**416店**

福岡 121(3) 大分 65(3)  
佐賀 35 宮崎 45(1)  
長崎 28(27) 鹿児島 58(7)  
熊本 53(2) 沖縄 11(11)

中国エリア

**101店**

鳥取 4 広島 24  
島根 8 山口 38(1)  
岡山 27

北陸エリア

**14店**

富山 7 福井 1  
石川 6

北海道エリア

**1店**

北海道 1

東北エリア

**15店**

宮城 12  
福島 3

関東エリア

**69店**

茨城 11 埼玉 15  
栃木 12 千葉 11  
群馬 13 東京 6  
神奈川 1

中部エリア

**68店**

岐阜 15 愛知 34  
静岡 12 三重 7

四国エリア

**48店**

徳島 6 愛媛 21  
香川 15 高知 6

近畿エリア

**140店**

〈ジョイフル 64店〉 滋賀 12 兵庫 23 京都 6 奈良 5  
京都 8 奈良 8 大阪 52 和歌山 5  
大阪 6 和歌山 7 兵庫 8

会社概要 (2018年12月31日現在)

社名 株式会社ジョイフル  
本社所在地 大分県大分市三川新町一丁目1番45号  
福岡センター 福岡県筑上郡築上町日奈古186番1号  
熊本工場・配送センター 熊本県菊池市袈裟尾字下大迫445番4号  
愛知工場 愛知県豊川市御津町佐藤浜三号地1番17号

創業 1965年6月 資本金 60億円  
立 1976年5月 主な事業内容 「ファミリーレストランジョイフル」のチェーン展開  
連結子会社 株式会社ジョイフル北日本/株式会社ジョイフル関東/株式会社ジョイフル東海/株式会社ジョイフル東関西・北陸/株式会社ジョイフル西関西/株式会社ジョイフル中国/株式会社ジョイフル四国/株式会社ジョイフル北九州/株式会社ジョイフル中九州/株式会社ジョイフル東九州/株式会社ジョイフル西九州/株式会社ジョイフル南九州/株式会社Rising Sun Food System/株式会社フレンドリー/株式会社ジョイフルサービス

## 株主メモ

事業年度 毎年7月1日から6月30日  
定時株主総会 毎年11月  
基準日 定時株主総会の議決権/毎年8月31日  
期末配当金/毎年8月31日  
中間配当金/毎年2月末(中間配当を実施する場合)

単元株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
郵便物送付先 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) TEL.0120-782-031(フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

電子公告の方法により行います。但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

http://www.joyfull.co.jp/

福岡証券取引所

◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について

株主様の口座がある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

◎未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に申し出ください。

◎「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。※確定申告をされる株主様は、大切に保管ください。